



2023年9月3日主日連合礼拝メッセージ 日本同盟基督教団クリスチャンプレイズチャーチ

『聖餐の意味と恵み』

説教者：鄭 南哲牧師

聖書箇所：コリント人への手紙第一11章23-29節

(Rev. Jung namchul)

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！9月初の主日礼拝へようこそ、おいでくださいました！我らの教会では月はじめの主日礼拝の時に、聖餐式を守り行っていますが、本日は、いつも礼拝中説教の前に行われた聖餐式を、この説教の後で行おうとしております。本日の説教のテーマである「聖餐の意味と恵み」が何であるか分かりやすく説明しますので、もう一度共に確かめて聖餐にあずかりたいと願っております。

キリストが定められた洗礼とともに、もう一つの礼典(礼典とは、イエス・キリストが定められた、公的礼拝で行われる二つ儀式であり、洗礼式と聖餐式の二つです)は「聖餐(主の聖餐)」と呼ばれるものです。興味深いことに、主イエスは弟子たちに、ご自分の誕生を思い起こすようには言われませんでした。そうではなく、ご自分の死と復活を覚えるように言われたのです。主は私たちに、救いを象徴する2つの礼典をお与えになりましたが、私たちの教会ではそれを、「秘蹟(サクラメント Sacrament)」という言葉で表現しないことにしています。

というのは、「秘蹟(ひせき)」と言う言葉には、何かその儀式自体に人を救う効力があるかのようなイメージがあるからです。洗礼(バプテスマ)や聖餐式自体が人を救うものではありません。聖書が教えているところによれば、それらはあくまでも救いの象徴なのです。しかし、聖餐式にはとても大切な霊的真理が示されていることもまた事実であります。

ですから、まず、聖餐式は簡単に行えるものであります。

「すなわち、主イエスは渡される夜、パンを取り…」(23節)。聖書は、一番最初の聖晩餐会、すなわち主イエスご自身が十字架にかけられる前の晩に弟子たちとともに行った聖餐の様子を伝えています。主イエスは、何か特別な服装に身を包み、香をたき、特別な雰囲気を作り上げて手の込んだ儀式を演出する、ということはなさいませんでした。

初めの聖餐式はとてもシンプルなものでした。主イエスは、パンとぶどう酒を取って、弟子たちに分け与えました。そこには奇(き)をたらうような何かはありませんでした。

我らのクリスチャンプレイズチャーチでも、聖餐式を行う時には、過度な演出にならないように気をつけています。そこに込められている意味に、心を集中できるようにしたいと考えているからです。

そして、聖餐式は象徴的なものでありながら、キリストの罪赦しと御救いを確信させ、今もなお生きておられるともにおられるイエスキリストとの恵みと感謝の交わりを続けさせるものです。

「食事の後、同じように杯を取って言われました。「この杯は、わたしの血による新しい契約です。飲むたびに、わたしを覚えて、これを行いなさい。」(25節)

主イエスが、「このパンはわたしの体、この杯はわたしの血を表している」と言われたとき、彼はそれを文字通りの意味で言われたものではありません。その時、主イエスはまだ十字架にかけられてもいませんでしたし、血も流されていなかった時でした。明らかに、主イエスはこれを象徴として受け止めるように言われたのです。

主イエスはかつて、「私は門です」(ヨハネ10章9節)と言われたことがあります。だからといって、イエス様が木材の木の門であるという意味ではないことをみんなご存じでしょう。同じようにイエス様が「私がいのちのパンです」(ヨハネ6章35節)とも言われましたが、だからといって、イエス様が実は食パンだったのだというように思う方はだれもいらっしやらないと思います。主イエスは象徴としてこれらの表現が使われたのです。

ですから、「これはわたしのからだです」と言われた時にも、象徴として言われたことが分かります。

聖餐を正しく受け、参加するためには、まず聖餐を正しく知る必要があります。

小教理問答96問で「聖餐とは何ですか。」(大168問)と問い、「聖餐は聖礼であり、キリストが制定されたよ

うに、パンとぶどう酒を授受(じゅじゅ)することによって、キリストの死を示すものです。この聖餐をふさわしく受ける者は、肉と欲望の方法ではなく、信仰によってのみ、キリストの体と血に参加し、キリストのすべての恩恵を受け、霊的な養育と恵みの中で成長するものです。」と答えています。

1. 聖餐は私たちの主イエス・キリストを仰ぎ見るように導きます。(Look up)

晩餐は「主の晩餐」と言われました(11:20)。「主の晩餐」という言葉は、主が与えた晩餐という意味です。主の晩餐は、主が自ら用意された聖餐です。ですから、この聖餐の主人は主イエス・キリストご自身です。聖餐式は、イエス・キリストが「最後の晩餐」によって制定されたものです。

そして、「これはあなたがたのためのわたしの体」(11:24)だと言われました。なので、聖晩餐は私たちのための晩餐です。ですから、聖餐は今、私たちが主の晩餐に招かれ、今もなお生きておられる主と一緒に食べて交わりの時を持つことであります。主は私たちと交わりを持つ時、御言葉と晩餐を通して交わりを持ちます。主の晩餐に参加する者は飢え渴くことはありません。なぜなら、主の体は私たちの真の霊的な糧となり、主の血は渴くことがないように真の飲み物になるからです。

また、主の晩餐に参加する者は保護されます。主の血は過越祭の子羊の血となるからです。ですから、主の晩餐に招待されて参加する我らみなは主イエスキリストを仰ぎ見るべきです。

2. 聖餐は主が捕らえられた夜を振り返らせ、思い起こし、確信させる(Look back)

聖餐式は思い起こし、確信するものであります。「感謝の祈りをささげた後それを裂き、こう言われました。「これはあなたがたのための、わたしのからだです。わたしを覚えて、これを行いなさい。」(24節)

聖餐の第一目的は、私たちが主イエスの十字架をいつまでも覚え続け、見上げ続けためということです。

ハイベルバルク信仰問答75問

あなたは聖晩餐において、十字架上でのキリストの唯一の犠牲とそのすべての益にあずかっていることを、どのように思い起こしました確信させられるのですか。

答えは、「次のようにです。キリストはご自身を記念する為、この裂かれたパンから食べこの杯から飲むようにと、わたしとすべての信徒にお命じになりましたが、その時こう約束をなさいました。第一に、この方の体が確かにわたしのために十字架上でささげられ、また引き裂かれ、その血がわたしのために流された、ということ。それは、主のパンがわたしの為に裂かれ、杯がわたしのために分け与えられたのを、わたしが名の当りにしているのと同様に確実である、ということ。第二に、この方ご自身が、その十字架につけられたからだ流された血とをもって、確かに永遠の命へとわたしの魂を養い、また潤してくださる、ということ。それは、キリストの体と血との確かなしるしとして私に与えられた、主のパンと杯とをわたしが奉仕者の手から受け、また実際に食べるのと同様に確実である、ということです。」

本文23-24節に、「私は主から受けたことを、あなたがたに伝えました。すなわち、主イエスは渡される夜、パンを取り、感謝の祈りをささげた後それを裂き、こう言われました。「これはあなたがたのための、わたしのからだです。わたしを覚えて、これを行いなさい。」

聖餐はキリストが受難されたその夜を振り返らせるように我らを導きます。キリストが苦難を受けられたその夜は過越の晩でした。イエス様は十字架にかけられる前の夜、12弟子たちと過越祭をされました。この過越祭りこれはユダヤ人が毎年守らねばならない3大際の一つで、特別な夕食をする春の祭りです。イエス様はこの祭りのやり方ではなく、別の新しい意味を与えて聖餐をされました。それは十字架にかかって殺されるイエスの体と

血を象徴するパンとぶどう酒をみんなで食べ、これを後にも続けて守るように定められたのです。

過越は、神を信じるイスラエルの子孫に自由と救いを与えるために、神様が制定された時です。過越の夜、子羊が犠牲され、その血をイスラエルの子孫は滞在している家に撒(ま)き、ぬりました。神はその子羊の血が撒かれた家の中にいる者たちはみな命が守られ、神の救いを得られるようにして下さったのが過越のはじまりでした。

過ぎ越の夜は、神を信じて命じられた通りしたがって、子羊の血を家の門柱に塗ったすべてのイスラエルの子孫たちのみが重い奴隷の束縛から解放され、抑圧の地、奴隷の座から救い出され、自由の地へ進める祭りの夜でした。

聖餐は私たちクリスチャンの過越の祭りの時です！

聖餐は、神の御子イエス・キリストが私たちのために、ご自身のお体と血を流されたその日を振り返らせます。イスラエルの子孫は子羊の血によって安全に守られ、救われ、自由にされたように、私たちクリスチャンもキリストの尊い御体と血潮によって、信じ、従うすべての者たちに罪の鎖から我らを解放させ、神の救いを確かめ、安全に、自由に進んで生けます。

聖餐はキリストが私たちのために犠牲の血を流されたことを振り返る尊い時間です。

3. 聖餐は自分自身の内側を見つめ探るようにさせます。(Look in)

使徒パウロは勧めます。本文 **27-28節**です。「したがって、もし、ふさわしくない仕方でパンを食べ、主の杯を飲むものがあれば、主のからだと血に対して罪を犯すことになります。だれでも、自分自身を吟味して、そのうえでパンを食べ、杯を飲みなさい。」

「新しいこねた粉のままでいられるように、古いパン種をすっきり取り除きなさい。あなたがたは種なしパンなのですから。私たちの過越の子羊キリストは、すでに屠(ほ)られたのです。」(1コリント5:7)

聖餐は、自分に古いパン種があるかどうか自分を探り吟味するように導きます。ここで、「古いパン種」とは、古い習慣、罪の癖、奴隷の癖などを意味します。イスラエルの子孫たちが過越祭のごちそうを準備する時、家長やお父さんたちは片手にともしびを持ち、違う片方の手にはやっこを持って、家の中に麴(こうじ)かびがあるかどうかをすきまごとにいちいち調べ、取り除き、家の中をきれいにしたそうです。他の家族は服を洗い、体を洗って祭りに参加しました。

霊的な意味として、私たちクリスチャンも聖餐に参加しながら、自分自身を深くかえり見なければなりません。聖なるキリストの体に参加するために、今まで自身の中不浄、不義な生活や淫らな行いがあったかどうか自分を調べ、そのようなことがまだ続いているところがあるならば、言い表し、悔い改める心を持って、断ち切る決断を持って聖餐に参加すべきであることを教えて下さっています。

ですから、私たちの教会では、聖餐にあずかる前に、祈りつつ自分自身を吟味する時間を設けるようにしています。ですので、聖餐にあずかる時、こう祈りましょう。

「神様、この生産にあずかるにあたって、私の人生の中に何か告白すべき罪はないでしょうか。あなたとの関係の邪魔しているものがあれば、それを示してください」と。

聖書は、聖餐にあずかるときにはいつでも、自分自身をよく吟味し、心ざわしい態度で臨むようにと教えているのです。

具体的には以下の4つのことをしましょう。

①自己吟味です(28節)

「神様、私の人生において変えるべきことがあればそれを示してください」と祈ります。

②示された罪を告白します(第一ヨハネ1章9節)

③自分の人生を再び主に委ねます（ローマ12章1節）

④すべての関係の回復と守りを祈ります（マタイ5章23-24節）

聖書は、だれかに対して何か嫌な思いや怒りや恨みを抱いたまま、聖餐にあずかるのはふさわしくないと教えています。

4. 聖餐は自分の周りを見回し、他の人たちを顧みるように導きます。(Look around)

この教訓は1コリント11章ですと強調されています。

コリント教会の人たちは周りを顧みないで、食欲に自分たちだけ食べながら騒ぎました。

食べるものがなくて食べられない周りの人たちの世話をしませんでした。そのところを使徒たちから叱責を受けたのです。主の前に招待されて座っている私たち全員は、何か資格があって招待されたわけではありません。ただ主の憐れみと恵みのゆえに招待されたのです。ですから、兄弟姉妹の中平安であるか、悩みや苦しみに捕らわれていないかを周りを顧みながら、私たちもみな、共にお互いを支え合い、イエスキリストのように、その愛を分かち合えるように、周りの人たちにキリストの愛を表すように導きます。

5. 聖餐は再び来られる主を待ち望む礼式(れいしき)です。(Look forward)

26節に、「ですから、あなたがたは、このパンを食べ、杯を飲むたびに、主が来られるまで主の死を告げ知らせるのです。」

聖餐を行うということは、主の死を告げ知らせるということでもあります。過去と未来という2つの時を告げ知らせるのです。未来と言うのは、主が再び来られる時のことです。主は、その日が来るまでこれを行い続けなさいと言われました。一方、過去と言うのは、主イエスが十字架にかかれた時のことです。主は十字架にかかって永遠に死んでしまわれたわけではありませんでした。死からよみがえられ、今度は私たちを迎えに再び来られるのです！

聖餐は天の幸せをあらかじめ味わうものです。喜びの中で永遠に主と結ばれともにする子羊の祝宴のリハーサルです。聖餐は、私たちの環境、現実がどうであれ、ただこの地上で安住し、終わる者ではなく、私たちの顔を上げて、再び必ず来られる主を見上げ、待ち望むように目覚めさせます。聖餐は、まだこの地上で生かされ、奮闘し続けている我らに、神様が備えてくださったキリストとともに、神の御国でキリストとともに永遠に生きる未来の完全な神の救いを待ち望み、見上げ続けるように私たちを招いてくださいます。

6. 聖餐は私たちを世界に送り出す礼式です。(Look outward)

26節に、「ですから、あなたがたは、このパンを食べ、杯を飲むたびに、主が来られるまで主の死を告げ知らせるのです。」

聖餐の時は、主が死に、復活され、再び来られることを伝えるように派遣する礼式です。ですから聖餐は、クリスチャンをこの世に向かって出ていくようにします。世界に出て、キリストの真の弟子として、キリストの大使として仕え、伝えるように促します。昔の教会では礼拝の中聖餐式を終えて、最後には参加者にこう宣布されたそうです。ラテン語の名称は「ite, missa est」(go, you have been sent., go, you have been sent.)でした。だから聖餐は怠惰で遊んでいる者のための糧ではなく、この世に出て必死に戦うキリストの兵士たちへの霊的な力と糧となるものでした。聖餐は主が私たちのために自ら用意してくださった「主の晩餐」です。聖餐は主が捕らえられた苦難と犠牲の夜を振り返らせます。聖餐は自分の内側を見つめ、探るよう導きます。また、聖餐は自分だけではなく、周りを見回せ、人々を顧みるよう導きます。聖餐は、再び来られる主を見上げさせ、待ち望むよう導きます。聖餐は私たちをまた主の者として力づけられ、満たされて、勇敢にこの世に出て行って、主の福音を分かち合い、神の愛と救いを宣べ伝えるように我らを送り出してください。

<聖餐にあずかることができるのはだれでしょうか。>

聖餐にあずかることができるのは、キリストを自分の救い主と信じている人だけです。(マルコ 14 章 22-26 節)。主が最初の聖餐を行われたとき、それにあずかったのは、パンと魚の奇跡によっておなかを満たしたあの 5 千人の群衆ではありませんでした。主の聖餐にあずかったのは、主ご自身が真の信者であると認められた 12 人の弟子たちだけでした。だれでも聖餐にあずかることが出来たわけではなかったのです。

我らのクリスチャンプレイズチャーチでは、毎週日曜日の礼拝にはどなたでも、未信者の方でも礼拝参加は開かれています。しかし聖餐はイエスキリストを信じ、罪赦され、救われたクリスチャンのためのものであり、まだイエス・キリストを知らず、信じてない方々は控えるべきであります。

なぜなら、まだ未信者の方が軽はずみに聖餐にあずかるなら、その人はその身に神の裁きを招くことになることになるとイエス様は明らかに教えて下さっているからです。

私たちとしても、未信者の方に罪を犯させることはしないように注意すべきでしょう。

<聖餐の前に神は我らに何を望んでおられるでしょうか。>

①認めること

みなさんが長らく教会のメンバーであり、神様についてよく知っていたかも知れません。しかし、それでもなお「自分は本当にクリスチャンと言えるのだろうか。」という疑いを払拭(ふっしょく)することであるならば、その問題を解決することが可能です。

まず、第一、認めることです。自分が神を離れ、神をないがしろにして生きてきたことを認め、神に罪の赦しを求めるのです。

ヨハネの手紙第一 1 章 9 節のみことばをしっかりと心に刻んでおきましょう。

「もし、私たちが自分の罪を言い表すなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、すべての悪から私たちをきよめてくださいます。」

②信じること

キリストが私の罪のために死んで葬られ、3 日目によみがえられて今も生きておられることを信じることです。

「なぜなら、もしあなたの口でイエスを主と告白し、あなたの心で神はイエスを死者の中からよみがえらせてくださったと信じるなら、あなたは救われるからです。」(ローマ人への手紙 10 章 9 節)

「救われるからです」という部分を是非忘れないでください。

「救われるかも知れません」ではなく、「救われる」のです。そうだったらいいのにと願望ではなく、それは確かな約束なのです。みなさんは、「自分は果たして人生をキリストにゆだねたと言えるか。自分は本当に天国に行けるか。」という疑いを抱きながら信仰生活をすごしていませんか。自分の救いについて繰り返し疑ってしまう方は、その問題に決着をつけて下さい。もしみなさんが主イエスの御名を呼ぶならば、神はみなさんを「救ってください」のです。

神は決して嘘をつかれません。みなさんがどう感じるかの問題でもありません。大切なことは、神が何とおっしゃられるかです。神は、「もしあなたがたがわたしを自分の心に迎えるなら、わたしはあなたを救い、あなたに永遠のいのちを与えよう」と約束しておられるので、ただ信じれば救われるのです！

③受け取ること

神の救いのプレゼントを受け取ることです。この贈り物は無償で我らに差し出されています。ですから、これを獲得するためにお金を払ったり、必死で働いたり、奉仕に明け暮れる必要はありません。次のみことばをしっかりと覚えておきましょう。

「あなたがたは、恵みのゆえに、信仰によって救われたのです。それは自分自身から出たことではなく、神からの賜物です。行いによるものではありません。だれも誇ることはないためです。」（エペソ 2：8－9）

想像してみてください。もし天国に自力で入ることができたら、そこは何とも気分の悪くなる場所になってしまうのではないのでしょうか。人々は互いに、どうやって天国にたどり着いたかという自慢話に花を咲かせるようになるでしょう。

しかし、実際はそうではありません。天国というのは自分の力で到達できる世界ではないのです。ただ神からの贈り物を受け取るということによってのみ、天国にはいることができるのです。

④迎え入れること

主イエス・キリストを、自分の人生を導いてくださる主として迎え入れることです。

例えば、自分の人生を総括していた経営陣が入れ替わるということです。

それまでは自分自身が社長であったのを、キリストに譲り渡すという意味です。

今後はキリストが私の人生のマネージャーであり、ディレクターであり、社長であり、CEO(最高経営責任者)なのです。「しかし、この肩を受け入れた人々、すなわちその名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった。この人々は血によってではなく、肉の欲求や人の意欲によってでもなく、ただ、神によって生まれたのである。」（ヨハネ 1 章 12－13 節）

「受け入れた」「信じた」という言葉を覚えてください。これがクリスチャンになるための条件です。すなわち、キリストを「信じ」「受け入れる」ことです。

主イエスキリストは、みなさんを招いておられます。

「見よ。わたしは戸の外に立ってたたく。だれでも、私の声を聞いて戸をあけるなら、わたしは、彼のところにはいって、彼とともに食事をし、彼もわたしとともに食事をする。」（黙示録 3 章 20 節）

以下の祈りに心を合わせて、神に祈ってください。今日初めてキリストを心にお迎えするという方も、これまで何度も自分は果たして救われているだろうかと思いついて来られた方も、今、心から神に祈ることによって神の救いが確かなものであることと確信することができます。

<イエスキリストを迎え入れるための祈り>

「主イエス様、わたしを造り、わたしを愛して下さり感謝します。私があなただから離れて自分勝手な道を歩んでいたときでさえ、私のことを愛し続けてくださったことを感謝します。私の人生にはあなたが必要であることを気づきました。私が自分勝手に生きて来たことを赦して下さい。あなたが私の罪のために十字架にかかって死んでくださったことを感謝します。今後、さらにその恵みがよくわかるように導いてください。心を尽くしてあなたの示される道を歩みたいと願っています。どうか私の人生に来て下さり、わたしを内側から新しく造り変えてください。あなたの救いの恵みを受け取ります。これからのクリスチャンとしての成長を導いて下さい。イエスキリストの御名によって祈ります。アーメン！」

もしこの祈りを心から祈られたのであれば、神は約束の通りにして下さいます。何も感じないかも知れませんが、みなさんが人生をキリストに委ねたことは事実です。そのすべてを理解することはできないでしょう。しかしそれで良いのです。みなさんがこの世に生をうけたとき、この世界の成り立ちをすべて理解していたでしょうか。もちろんそうではないでしょう。同じように、新しく霊的に生まれ変わったみなさんは、クリスチャン生活について理解できていなくても、クリスチャンとして成長が始まります。聖書は言っています。「主の御名を呼び求める者は、だれでも救われる」（ローマ 10：13）神は、主の御名を呼び求めるなら救われる、と約束しておられます。すでに信じている教会家族の方々にはさらに聖餐の深い恵みにあずかり、まだ、信じてないすべての方々が、救い主イエスキリストを信じ、共に聖餐にあずかる日が一日も早く来るように切にお祈り申し上げます！
アーメン！